

2017グローバル サミット オブ ウィメン東京大会開催！

今年で27年目となるグローバルサミットオブウィメン（GSW：世界女性サミット）東京大会が2017年5月11日～13日、開催された。女性版ダボス会議とも言われる本大会は、毎年、世界各国で開催され、政治、ビジネス、地域等の分野を越え、そして年齢や立場を越えて、フラットな場で参加者が女性と経済について語りあう。今年、62カ国から過去最高の約1,300人が参集し、メイン会場のグランドプリンスホテル新高輪は、各国の民族衣装をまとった女性リーダーたちで埋め尽くされた。

今年のテーマは、「Beyond Womenomics : Accelerating Access」。ビジネスや政治等の各分野での女性活躍の加速のみならず、テクノロジーとソフトウェアの融合、経済や社会問題に対し女性が力を発揮しインパクトを与えることなど、各セッションを通し熱く語られた。

開会式～戻ることは無い！女性活躍推進の潮流～

オープニングセレモニーでは、GSWの主宰者代表であるアイリーン・ナティビダット氏に続き、東京大会実行委員長中村紀子氏が登壇。本大会のコンセプトとして、「202030に向けた契機としていくこと」、「ニュービジネスが誕生する場となること」「次世代の育成支援」の3つを紹介。続くセッションでは、安倍首相および岸田外務大臣が登壇。安倍首相は、「女性活躍の流れがもう戻ることはない」とさらなる推進の意欲を力強く語った。



ウェルカムディナー～迎賓館～

開会式後のウェルカムディナーは、赤坂迎賓館で開催された。総合プロデューサーは東京スカイツリータウンの設計を行った日建設計の塩浦政也氏。7色に変化する美しい迎賓館の照明は、同じく東京スカイツリーのライトアップを手がけた戸恒浩人によるもの。また、全国各地の蔵元の協力で縁起物の鏡開きが行われた後、世界的な太鼓パフォーマンス集団「DRUM TAO」による演奏等が行われた。国を挙げてのおもてなしは、参加者の感動を呼ぶ素晴らしい内容であった。



全体を通して～解決への着実なアクションとネットワーキング

グローバル&リージョナルメガトレンドでは、ポストンコンサルティングの津坂美樹氏が「消費を牽引するのは女性」と語り、労働力人口の未来予想やAIについての情報提供が続いた。また、例年注目される指導的立場における女性比率および各国の傾向も紹介された。アイリーン氏は、ソフトターゲットやクォータ制に言及。「クォータ制には賛否両論あるが、それによる効果は期待できる」と語った。

また本大会では、日本の歴代首相の中で、はじめて「経済における女性の活躍」を政策の中心に掲げ、ウーマノミクスを牽引してきた安倍首相の功績が評価され、2011年のトルコ大会における国連事務総長パン・ギムン氏（当時）につぐ2人目となる、男性によるグローバルウーマンズリーダーシップ賞を受賞した。この賞は、貧困や女性の地位向上に尽力したマラウイ前大統領 ジョイス・バンダ氏にも贈られた。また、政界において長年活躍し女性として初めて東京都知事に就任した小池百合子氏に日本女性リーダーシップ大賞が贈られた。各セッションに共通していたのは、問題を話し合うのではなく解決に向けたアクションが随所で話し合われたことだ。またそのためのネットワーキングが盛んに行われた三日間でもあった。

